

図書館だより

No.27

2024（令和6年）10月18日

石岡商業高校 図書委員会



猛暑も薄らぎ、かすかに金木犀の甘い香りが漂ってくる季節となりました。集中して本を読むには最適です。今年の読書週間がまもなく始まります。ぜひ図書館へ。

2024・第78回読書週間 標語「この一行に逢いにきた」

663人の応募者のなかから、中山実穂さんの「この一行に逢いにきた」が標語に選ばれました。また、ポスターのイラストは、大賞を受賞した熊梨江さんのデザインです。381点の応募があったそうです。「読書週間」の期間は、10月27日から11月9日までの2週間。



「読書月ゼロ冊」6割（2023年国語に関する世論調査 文化庁）

62.6%の人が月に一回も読まないと回答している。なぜ本を読む人は減っているのか。「スマホやタブレットなどに時間が取られる」が43.6%でトップ。10代～20代の若い世代に多い。読書離れは日本人の『長文離れ』という現象が起きているとの指摘もある。SNSによる短文のやり取りにより、長文を読めなくなっている人が増えているのではないかと推測もなされている。（2024.9.16付毎日新聞より）

お勧め本

なぜ働いていると本が読めなくなるのか（三宅香帆）



「大人になってから、読書を楽しめなくなった」「仕事に追われて、趣味が楽しめない」「疲れていると、スマホを見て時間をつぶしてしまう」…そのような悩みを抱えている人は少なくない。「仕事と趣味が両立できない」という苦しみは、いかにして生まれたのか。自らも兼業での執筆活動をおこなってきた著者が、労働と読書の歴史をひもとく、日本人の「仕事と読書」のあり方の変遷を辿る。そこから明らかになる、日本の労働の問題点と

は？（働いてなくても読まない人もいるが・・・）

35年目のラブレター（小倉孝保）

貧しさ故にいじめられ、低学年で小学校に通わなくなり、読み書きができないまま



社会に出た西畑保さん。差別的な扱いを受け、言いしれぬ劣等感を抱いてきましたが、持ち前の明るさを捨てず、手に職をつけ、結婚して子育てをし、そして還暦を過ぎて夜間中学で読み書きを学び始めました。その理由は、最愛の妻にラブレターを書くためだったのです。

「明るく、前向きに生きる」、「自分の人生を他人や環境のせいにはしない」、そして「学ぶのに遅すぎるということはない」――。そんな西畑さんを見てきた毎日新聞論説委員である小倉孝保氏が一冊の書籍にまとめた本です。

日本に導かれた運命（プラニク・ヨゲンドラ）

熾烈な競争を勝ち抜いて得た国費留学の切符、これが全ての始まりだった。ユニークな半生を通して多文化共生の道を探る自伝的エッセイ。インドの田舎町で生まれ育ったよぎが、日本への留学後、IT企業・日系銀行に勤務、同時にシングルファーザーとして子育てをし、カレー店などを経営しながら、区議会議員を経て、公立学校（土浦一高）の校長になった話。



新着本案内 図書館入口より正面書架に新着図書コーナーがあります

書名	著者名
岩波ジュニア新書 迷いのない人生なんて	共同通信社 編
共に明るい	井戸川射子
変な家〈2〉11の間取り図	雨穴
首木の民	誉田哲也
なぜ働いていると本が読めなくなるのか	三宅 香帆
立春大吉	浅尾大輔
熱帯の感染症	大山健康財団
時代の反逆者たち	青木理
グローバル・シチズン 自分らしく夢を叶える7ルール	川尻征司
最高の勉強法	安川康介
俺たちの箱根駅伝 上・下	池井戸潤



対決	月村了衛	生成AIで世界はこう変わる	今井翔太
斬首の森	澤村伊智	プロバードガイド直伝	石田光史
私が見た未来 完全版	たつき 諒	寄り添う言葉	永田和宏
狙われた国と地域 ウクライナ	松竹伸幸・稲葉茂勝	いちばんわかりやすい日本神話	小野寺優
狙われた国と地域 台湾	松竹伸幸・稲葉茂勝	日本に導かれた運命	プラニク・ヨゲンドラ
狙われた国と地域 パレスチナ	松竹伸幸・稲葉茂勝	人間関係ってどういう関係	平尾昌宏
狙われた国と地域 韓国	松竹伸幸・稲葉茂勝	「差別」のしくみ	木村草太
さまよえる神剣	玉岡かおる	学校に染まるな!	おおたとしまさ
キミは文学を知らない。	山本 英子	わからない世界と向き合うために	中屋敷均
悪口ってなんだろう	和泉悠	数学の苦手が好きになるとき	芹沢光雄
35年目のラブレター	小倉孝保	中高生の陸上競技	花谷昴
50万語を編むー「日国」松井栄一の記憶	松井栄一/佐藤宏	三省堂現代新国語辞典 第7版	小野正弘・市川孝 他
中村 哲という希望	佐高信・高世仁	一度読んだら絶対に忘れない韓国語の教科書	ヒョン・カンヒ
フランスの高校生が学んでいる哲学の教科書	シャルル・ペパン	一線の湖	砥上裕将
成瀬は信じた道をいく	宮島未奈	芥川龍之介の桃太郎	芥川龍之介
中学校・高等学校 キャリア教育の手引き	文部科学省	さ・え・ら	
疲労とはなにか	近藤一博	政府は2022年度から第6次「学校図書館図書整備等第5か年計画」をスタートさせた。更新する予算として第5次より25億円増の800億円を自治体に財政措置しているが、地方交付税交付金であるため図書予算以外に執行されているのが現状である。1校あたりの図書購入費の平均は、小学校46.8万円、中学校65.7万円、高校76.8万円。小学校はこの10年では最低となり、中高も横ばい状態である。また、学校図書館への平均新聞配備数は計画での目安を下回る小学校1.1紙、中学校1.5紙、高校3.6紙である。〈全国学校図書館協議会の調査より	
東京 RETRO タイムスリップ	善本喜一郎		
ルールはそもそもなんのためにあるのか	住吉雅美		
生きるとはどういうことか	養老孟子		